

土屋葉

(演題)

家族・ケア・自立生活：ジェンダーの視点から考える

(要旨)

日本において、障害者の地域での自立生活を論じる際には、かれらの家族との関係に注目する必要がある。この国では、家族によるケアが自明のものとされる傾向にあり、高齢や病気により、家族がケアできなくなる時を除いて、出来る限り家族が愛情をもってケアすべきだという規範が強い。とくに先天的な障害をもつ人が自立生活を志すときには、しばしば周囲の人から「家族がいるのになぜ自立しようとするのか」と問われる。そもそも、かれらの収入は地域で自立生活をするためには十分ではない。このため、かつてと比べてサービス体制が整えられてはいるものの、多くは家族に依存する生活を送っている。

いくつかの法律や制度が、家族による障害のある家族メンバーを扶養したり世話したりする責任を負わせている。実際に、障害者の日常生活のケアは、多くは家族メンバーである女性が引き受けている。障害のある人の地域における自立生活を進めていくためには、こうした、家族のみに責任を帰するような社会のあり方自体を問い直す必要がある。